

## 第3回 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進協議会 議 事 概 要

事項	第3回 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進協議会	出席者	34名(随行者・事務局除く)
日時	平成28年3月7日(月) 13:55~16:15	場所	小野市うるおい交流館エクラ 大会議室
内容	<p>1 開会</p> <p>(1) 開会あいさつ</p> <p>(2) 委員及び出席者紹介</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画について</p> <p>(2) 各ワーキングの報告及び取組事例の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上流域ワーキングの報告</li> <li>・中流域ワーキングの報告</li> <li>・西脇市 「挑戦する浸水対策(総合治水)」</li> <li>・下流域ワーキングの報告</li> <li>・法華山谷川中流部左岸の防災・減災への取り組み</li> <li>・「水防災意識社会再構築ビジョン」及び「避難を促す緊急行動」について</li> </ul> <p>(3) 地域総合治水推進計画フォローアップの進め方について</p> <p>3 その他(連絡事項)</p> <p>4 閉会</p>		
資料	<p>議事次第、出席者名簿、配席図</p> <p>資料1 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱</p> <p>資料2 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画の概要</p> <p>資料3 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画にかかる体制</p> <p>資料4 上流域ワーキングの報告</p> <p>資料5 中流域ワーキングの報告</p> <p>資料5-1 西脇市 「挑戦する浸水対策(総合治水)」</p> <p>資料6 下流域ワーキングの報告</p> <p>資料6-1 法華山谷川中流部左岸の防災・減災への取り組み</p> <p>資料7 「水防災意識社会再構築ビジョン」及び「避難を促す緊急行動」について</p> <p>資料8 地域総合治水推進計画フォローアップの進め方について</p> <p>机上資料 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画</p>		

### 1 開会

あいさつ(赤木北播磨県民局長)

委員の紹介(事務局)

## 2 議事

### (1) 東播磨・北播磨・丹波（加古川流域圏）地域総合治水推進計画について

「資料2 東播磨・北播磨・丹波（加古川流域圏）地域総合治水推進計画の概要」

「資料3 東播磨・北播磨・丹波（加古川流域圏）地域総合治水推進計画にかかる体制」の説明を行った。（事務局）

### (2) 各ワーキングの報告及び取組事例の紹介

「資料4 上流域ワーキングの報告」「資料5 中流域ワーキングの報告」「資料5-1 西脇市-挑戦する浸水対策（総合治水）-」「資料6 下流域ワーキングの報告」「資料6-1 法華山谷川中流部左岸の防災・減災への取り組み」「資料7 「水防災意識社会再構築ビジョン」及び「避難を促す緊急行動」について」の説明と意見交換を行った。（事務局、国、西脇市、加古川市ため池協議会連絡会）

### (3) 地域総合治水推進計画フォローアップの進め方について

「資料8 地域総合治水推進計画フォローアップの進め方について」の説明を行った。（事務局）

## 主な意見

### (1) 上流域ワーキングの報告

- 1 金屋上池に設置した事前放流施設（切り欠き）について、降雨に合わせて堰板を管理する必要があるが、きちんと管理できているのか。加西市においても同様の取組を3年ほどしているが、降雨予想が外れると農業に支障をきたすうえ、堰板を元に戻すなどの管理もきちんと行き届かない。（加西市県民委員）

⇒金屋上池の事前放流施設の運用を開始したのがH27年9月1日からであり、それ以降大きな雨が降っておらず、具体的な事象は発生していない。そのため、中下流域での事例などを教えていただきたいと思っている。（事務局）

⇒この事前放流施設の設置をした金屋自治会である。（農業用水用の）取水孔が3孔あり、農繁期が過ぎたら真ん中まで落とすようにしているが、農繁期は水が不足すると困るため、事前放流はできないと考えている。（丹波市県民委員）

### (2) 中流域ワーキングの報告

- 1 多可町は西脇市の上流にあたり、地形的に切っても切れない関係にある。10～20年前であれば、下流への洪水到達時間は十分にあったように思うが、最近は山林の荒廃により山の保水機能が落ちている。西脇市は上水道として水を利用するので、多可町としては下流である西脇市に水を流すことは重要であると考えているが、自然の力は非常に大きく、災害に対する備えは必要である。費用をかけて構造物を作ることも重要であるが、多角的に考えていく必要があると感じている。（多可町県民委員）

⇒加古川流域は山林の占める割合が高く、推進計画のなかでも流域対策として森林整備および保全を挙げている。モデル地区の多可町多田川流域においても、森林整備に取り組むとしているが、森林整備の効果がでるのは時間がかかることやその数値化が難しいことから、モデル地区での取組事例などを皆様にご報告しながら、総合治水計画で、今後、森林の整備に取り組んでいくことができたらと思う。(事務局)

- 2 西脇市黒田庄町福地地区は、モデル地区ということで、いろんな連携を図り、進捗状況もしっかりお伝え願っているが、設置のポンプを大型にしていかなければという住民の声もある。それと同時に田んぼダム、せき板は、その地域だけでなく上流地域の営農関係との連携の必要性が、今後の課題と思っている。市の行政と住民が一体となって、ためることに対して、協力体制を取っていかなければとの課題を持っている。

もう一つ危惧しているのが、上流の佐治川と篠山川の合流点。その合流点に堰堤ができた。その被害は非常に大きく、大きな石が急流ということでどんどん流れていく。昨年、また大きな工事をされたが、その検証は必要と思う。いろいろところで被害がおきており、佐治川と篠山川との合流点についていろんな検証をしながら対処をお願いしたい。(西脇市県民委員)

⇒連携ということでは、総合治水協議会の場で、ご意見を頂戴することが、流域での行政、住民間での連携を可能にしていると考えている。また、検証については、計画のフォローアップをうたっており、その中でお示しできればと考えている。(事務局)

- 3 西脇市の大型排水ポンプの設置予定について教えて欲しい(丹波市県民委員)

⇒平成 27 年度に設計業務に着手し、平成 28 年度以降の設置に向けて準備しているところであり、地元と引き続き協議を行っていきたいと考えている。(西脇市)

- 4 最近の雨の特徴は局地的で短期間に強い雨が降る傾向にあると思う。これまでタイムラインなどの取り組みされていて、こういったゲリラ豪雨のような事例は経験されたか。(会長)

⇒ゲリラ豪雨の場合、職員が対応する時点でやんでいるということもあるので、地元にも協力してもらい、現場での操作をしてもらうことによって被害を防ぐという協力体制を取っている。(西脇市説明者)

- 5 それは地元との協力体制という枠組みも既にあるということですね。(会長)

⇒学習会などを通じ、地元を守るのは地元の皆さんの力なくしてはできないということをお伝えしている。市もできることは協力をさせていただくが、時間的に間に合わないことが当然起こるので、地元の方が率先して活動していただくことで防げると考えている。(西脇市説明者)

### (3) 下流域ワーキングの報告

- 1 農繁期にため池の水位を事前に下げることにについて、トラブルや調整が困難な事例があったら教えて欲しい。(会長)

⇒水利権者同士の了解が得られれば水の調整は非常にやり易いが、1箇所でも反対があればできないと思う。富木地区については、事前水位下げは水利権者として当たり前と考えており、水位がいつごろ戻るかということも経験からわかっている。そういう文化があれば、農繁期であっても事前水位下げは可能であると思う。(加古川市ため池協議会連絡会説明者)

- 2 地域として「そなえる」活動をされておられるが、それらの活動と上述の関連性があれば教えて欲しい。(会長)

⇒加古川市は、以前はため池の協議会の横連携ということで、広域の話し合いをしていたが、なかなか折り合いがつかず、現在活動は行っていない。(加古川市ため池協議会連絡会説明者)

### (4) 「水防災意識社会再構築ビジョン」及び「避難を促す緊急行動」について

- 1 国が主に担当する外水対策とこの総合治水における内水対策の関連性について、県もしくは国でお互いにできるようなアイデアなどがあれば教えて欲しい。(会長)

⇒われわれは主に、加古川でも外水氾濫を防ぐために、特に本川をどう流すかということを検討している。一方で、地域の生活に密着している小さな支川などで氾濫が一番起きている。本川の水位が高くなったときに、支川を自由につないでいると本川の水が逆流し、大きな浸水が起これるので、基本的には支川と切り離して管理をしている。一番いいのは、支川と切り離れたうえで、堤内地にポンプを設置して、本川に流すのがよいが、ポンプ設置費や管理費がかかるため、重要なところに適正な規模で設置しているというのが実態です。また、本川の水位が低ければ低いほど、小さな支川あるいは水路等の浸水が起これにくくなるため、基本的に本川の水位をいかに下げるかを考えてハード対策をしている。具体的には、河道の拡幅、河床掘削など。また加古川では現実的に難しいが、上流でしっかりためて、下流へ流れてくる水を少なくし、水位を下げるといった発想で仕事をしている。

ソフト面での連携でいうと、過去の雨の降り方から、ポンプの設計をしているが、雨の降り方も変わってきているため、計画どおりではなく、実際の川の水位を情報共有しながら連携運用をしていくステージに入っているため、流域の方々、住民の方々、あるいは自治体の方々と連携していきたいと考えている。(国委員)

### (5) まとめ

総合治水では「連携」が非常に重要である。県、国、市町、県民が一同に介して本日のようにいろんな意見を情報交換しながら総合的に人の命を守ることが非常に重要であ

ることを改めて実感した。加古川流域圏では上・中・下流で総合治水の取組が活発にやられている。田んぼダム、ため池、各戸貯留などの「ためる」取組、タイムラインの考え方を使った総合的な治水や防災への取組、防災マップ、ため池協議会での「そなえる」活動も含めた取り組み等、本日はよい情報交換ができた。3.11 が近づくなかで、阪神・淡路大震災から今年で 21 年、鬼怒川では昨年 9 月、関東の国管理河川としては昭和 61 年の小貝川以来 29 年ぶりの堤防決壊で大水害がおこるなど、災害は忘れた頃にやってくる。本日の総合治水のような取り組み・情報交換を毎年行い、地域の防災力が向上するようになれば良いと思う。(会長)

### 3 閉会

第3回東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進協議会  
出席者名簿

(順不同、敬称略)

属性	委員氏名	主な役職	出欠	代理人氏名
学識経験者	宮本 仁志	芝浦工業大学教授	出席	
国	朝田 将	姫路河川国道事務所長	出席	
兵庫県	太田 和成	神戸県民センター長	代理出席	神戸県民センター神戸土木事務所長 宮本 眞介
	多木 和重	阪神北県民局長	代理出席	阪神北県局宝塚土木事務所長 松本 正利
	真木 高司	東播磨県民局長	代理出席	東播磨県民局加古川土木事務所長 伊藤 裕文
	赤木 正明	北播磨県民局長	出席	
	柳瀬 厚子	丹波県民局長	代理出席	丹波県民局丹波土木事務所長 安川 徳
県民	岡田 康裕	加古川市長	代理出席	建設部担当部長 樋口 裕昭
	藪本 吉秀	三木市長	代理出席	危機管理課防災監兼危機管理課長 富田 誠
	登 幸人	高砂市長	代理出席	治水対策室主幹 高見 良仁
	蓬萊 務	小野市長	代理出席	地域振興部長 橋本 造明
	森 哲男	三田市長	代理出席	都市整備部長 坂本 公績
	西村 和平	加西市市長	代理出席	総務部長 森井 弘一
	酒井 隆明	篠山市市長	代理出席	まちづくり部長 梶村 徳全
	辻 重五郎	丹波市長	代理出席	建設部長 駒谷 誠
	安田 正義	加東市長	代理出席	上下水道部工務課長 大橋 勝彰
	古谷 博	稲美町長	代理出席	地域整備部土木課長 本岡 利章
	清水 ひろ子	播磨町長	代理出席	下水道グループ統括 喜多 朗
	伊藤 和英	西脇市上下水道部工務課主査		(発表者)
	県民	新田 嘉己	神戸市山田校下自治振興会会長	出席
馬田 寿雄		加古川市町内会連合会副会長	出席	
村上 均		西脇市連合区長会副会長	出席	
小山内 政子		三木市区長協議会連合会会長	出席	
前田 栄一		高砂市連合自治会会長	出席	
藤岡 善博		小野市両来住郷協議会 相談役	出席	
山下 公明		加西市区長会会長	出席	
山下 奉治		加西市消防団長	出席	
森口 久		篠山市自治会連合会会長	出席	
待場 定樹		丹波市自治会連合会 理事	出席	
篠倉 貞夫		加東市区長会副会長	出席	
工古田 隆夫		多可町区長会会長	出席	
西澤 一弘		稲美町土地改良事業連絡協議会会長	出席	
森野 六男		播磨町自治会連合会会長	出席	
富木 攻	加古川市ため池協議会連絡会 (富木地区環境保全協議会会長)	出席	(発表者)	

議事録確定署名人

座長: 芝浦工業大学教授

宮本 仁志

北播磨県民局長

赤木 正明